

月の卒業式

いちのみや

登場人物

ヨシオ

カナコ

かえで

タイチ

みずほ

ACT 1

パッヘルベルのカノンが流れるとともにだんだんと明るくなる。

一本の木。

首を吊るための縄が垂れ下がっている。その下に踏み台がある。

制服の年少少女が、一人、一人とその木の下に横に並んでいく。

彼らの手には花束がある。

どこからか声が聞こえる

声 卒業証書授与されるもの

声 卒業証書授与されるもの

声 卒業証書授与されるもの

声が大きくなるにつれ、ヨシオの姿が浮かび上がる。台の上にヨシオが立つ。

ヨシオ 青木 光男

加藤 浩子

佐久間 みずほ

鈴木 茂雄

中島 はな

前田 かえで

矢島 薫

渡辺 タイチ

けれども返事の声は聞こえない。

生徒らしき人影は、一人また一人と、床に花束を置いていく。

ヨシオ どうして誰も返事しないんだ。

生徒たちはただ、床を見つめている。

生徒は、無言で立ち去る。

カノンの音楽が強くなる

ヨシオ、虚空にむかって話し始める。

ヨシオ 校庭の桜の蕾も膨らみ始め、春らしさを感じられるようになりました。

それでも雪解けにはまだ早く、まるで別れを惜しむかの様にも思えます。

冬の名残のまだ去りやらぬ時期ですが、一日と温かい春へと近づいている兆しが見えます

あ、いや、でも朝目が覚めると、まだ寒いなあって思う時もありますし、夜になると、毛布がないと寝られないくらいには寒いですね、あ、そう夜です。夜。この辺りでは夜になる

と月の光が眩しく、あたりの山を美しく照らし出します。時折、月が山の端にかかるとき、想像以上に大きく見るときってありますよね、あれってね、実は錯覚なんです。月が空高くにある時にはね、こう、まわりに何もなかったら、小さく見えるんだけど、それが地平までくるとこう大きくみえるんですよ、え？わからない。わからない人は一度見て見るといいですよ。まあ、簡単に言うけどね、時々人間っていうのは、遠く遠く離れた月でも手が届くんじゃないかってそういう淡い期待を抱くもんなんです。ええ、こうやってすぐそばにね、あるような気がするんです。

といい、ヨシオ、頭上の首吊りの紐に向けて手を伸ばす。

ヨシオ

まあ、結局届かないんですけどね、いやーそう考えると、実際に月に降り立ったアポロ二号の宇宙飛行士はすごいもんですね、こう重力なんてしがらみもなく、自由自在に飛び回りますからね。そうだ、自由自在といえбаですね、このあたりは山や川だらけで何もすることがない、いわばそれは不自由ですが、それはある意味では自由というわけで、あ、自由といえбаですね、自由、自由ってこうみんな言いたがるわけですよ。言論の自由。表現の自由。思想・良心の自由。こう自由ってつければ何でも許されると思って使う人がまあ多い。他人のことなんか顧みず、なんで

もかんでもきままにやる。遊びたいときには  
遊んで、騒ぎたい時に騒いで、食べたい時に  
食べて、眠たい時は寝て、ええ、そんな風に  
喋っていると、なんだか私もねむくなつきち  
やったなあ。

といい、花束に囲まれ、横たわる。

ヨシオ、目を瞑る。

カノンの音楽が止まる。

## ACT 2

そこにカナコが近づき

カナコ 先生、先生。

ヨシオ んん

カナコ ヨシオ先生、寝てるんですか。

ヨシオ え、あ、ごめん

カナコ もー、花束こんなに散らかして。

ヨシオ ごめんごめん。

カナコ 書けたんですか？

ヨシオ え？

カナコ 祝辞

ヨシオ ええ、読む練習してたら眠くなっちゃって。

カナコ 読みますよ

ヨシオ あ

無言で、紙を見るカナコ。

ヨシオ どう？

カナコ うん

ヨシオ いいかな？

カナコ うんうん

ヨシオ ほんとに？

カナコ なわけないでしょ

ヨシオ えっ

カナコ えっ、じゃないですよ、えっ、じゃ。後半ほとん

とんど関係ないし、話し言葉じゃないですか。

前半も季節の挨拶長すぎだし、ていうかどこ

にも卒業おめでとうが書かれてないじゃない

ですか。

ヨシオ あっそっか。忘れてました。

カナコ もう、しっかりしてくださいよ。

ヨシオ ええ、わかってるんですけどね、なんかこう

カナコ こう？

ヨシオ プレッシャーで。

カナコ はあ。いいじゃないですか、祝辞が読めるだ

けで卒業式に。普通読めないですよ、校長く

らいしか。

ヨシオ なんで読めるんですかね

カナコ さあ

ヨシオ もしかして、信頼されてるってことですか

ね？校長から

カナコ なにそれ

ヨシオ いや、そうかなって

カナコ もう、ヨシオ先生って時々自分の都合のいい

ように考えちゃうんだから。

ヨシオ あ、やっぱり違うんですかね、そうですね、

はあ

カナコ あ、そうだ。生徒の名前もヨシオ先生が読むんですよね。

ヨシオ まあ、担任だから。

カナコ 大活躍ですね。

ヨシオ まあ、大活躍なのはいいんですけど、最近もう、夢にまで出ちゃうんです。

カナコ 校長が？

ヨシオ ちがいますよ、卒業式。

カナコ ああ

ヨシオ さつきも

カナコ こんなところで寝るから。

ヨシオ あ、でも変なんです。

カナコ え？変ってなにが？

ヨシオ いや、僕が生徒の名前を呼びあげるんですけど、返事しないんです。誰も。

カナコ なにそれ

ヨシオ いや、「卒業証書授与されるもの」っていったら、みんな動き出して、生徒の名前を呼んだら普通、「はいっ！」て言うじゃないですか。

カナコ ええ、それは

ヨシオ なのになんか返事しないんです。

カナコ へえ

ヨシオ なんですか？

カナコ まあ夢だからねえ。

ヨシオ 夢だから怖いんですよ

カナコ なにが？

ヨシオ 正夢

カナコ はは、嫌われてるの？生徒から

ヨシオ そんなことないですよ！そんなことないと、思ってます：あ、これも僕の思い違いなんです

すかね？

カナコ 大丈夫ですよ、大丈夫です。先生は好かれて  
ますから。嫉妬するほど

ヨシオ 嫉妬するほど…

カナコ えっ、ああ、ええ。そうです。先生として、  
先生としてですよ。

ヨシオ カナコ先生、今度ご飯とかどうですか？

カナコ ご飯…？

ヨシオ だめですよ、ごめんなさい

カナコ じゃないです。

ヨシオ え？

カナコ だめじゃないです。

### ACT3

かえでとタイチがベンチに座っている。

かえで この山を登っていくと、橋があって、その橋  
を越えると、下る道があって、そしてその下  
り道を降りていくと、また山があって、その  
山を越えるとまた山があるの。あ、そう、山  
にはね、こんなんでつかい虫がいるんだよ。  
こんなの、こんなのだよ。

タイチ うん

かえで …そうやって山を…つくらい超えたところに  
駅。一日に一本。来ない日もあるけど。

タイチ …うん

かえで …どうやってきたの？

タイチ え？

かえで ここまで。どうやって来たの？

タイチ 列車  
かえで 山超えて来たんだ  
タイチ 山超えて来た。  
かえで そりゃそうか  
タイチ 虫いた。こんなの  
かえで だよね

沈黙

かえで ねえ、名前なんだっけ、名前  
タイチ カミキリムシ  
かえで 虫、じゃなくてあなたの  
タイチ タイチ  
かえで タイチ、くん、わかった。わたしはね、  
タイチ かえでちゃん、だよね。  
かえで え！覚えてたの？  
タイチ うん  
かえで 私の名前。  
タイチ かえでちゃん  
かえで かえででいいよ  
タイチ かえで  
かえで タイチ。転校してきてくれてありがとう。  
タイチ なんでありがとう？  
かえで 嬉しいから。  
タイチ どういうこと  
かえで さあ。

「家路」が聞こえる。

かえで 帰らなきゃ。



タイチ なにこれ  
かえで 知らない？

かえで歌を歌う。

♪遠き山に 日は落ちて  
星は空を ちりばめぬ

タイチ 知らない

かえで なんだ

タイチ ；歌上手いね

かえで ；ありがとう

あたりが暗くなる。

ヨシオとカナコが走ってくる

ヨシオ ちょっと、カナコ先生、そんなに走ったら危

ないですって、ここ山なんだから。

カナコ 知ってる

ヨシオ 知ってるならもうちょっと待ってくださいよ

カナコ えー

ヨシオ ていうか、僕はご飯に誘ったはずなのになん  
で山にいるんですか。

カナコ さあ。

ヨシオ さあってねえ。

カナコ 見て。

ヨシオ ん？

カナコ 月

ヨシオ ああ

カナコ 綺麗

ヨシオ カナコ先生知ってますか？

カナコ なに？

ヨシオ 月が綺麗ですね

ヨシオとカナコの姿は闇に消える。

タイチとかえでが歩いて帰るところだ。

かえで 「月が綺麗ですね」って異性の人に言ったら、それは「愛しています」っていう意味になるの、それしたら、それを言われた人が「死んでもいいわ」っていうと、「私もあなたを愛しています」っていう意味になるんだって。

タイチ なにそれ

かえで まあ、なんていうか都市伝説みたいなもん

タイチ 都市伝説って

かえで 噂って言ったほうがいいのかな、ヨシオ先生が言ってた。

タイチ ねえ、それってさ、もし相手が好きじゃなかったらどうすればいいの

かえで え

タイチ いや、ほら月が綺麗ですねって言われて、もしもその人のことを好きじゃなかったらなんて返せばいいのかなって

かえで 「ごめんなさい」じゃない？

タイチ そこは普通なんだ。

かえで うーん、〇不なら「私、死んでもいいわ」でしょ、じゃあ、逆に「まだ死にたくない」みたいな

タイチ なるほど

かえで なに、だれかに告白される気なの？

タイチ いや、そんなんじゃ

かえで だれもあんたなんか告白しないわよ

タイチ うるさいなあ

かえで ……してあげようか

タイチ ……え

かえで 告白

舞台、闇に包まれる。

## ACT 4

ヨシオ それから一ヶ月がすぎた。卒業式を目前にして職員室は大慌てだ。僕は相変わらず、悪夢を見ていた。卒業式の光景。誰も返事をせず、ただただ闇に向かって歩いていく生徒の姿が不気味に見える。それはきつとまだ、僕が信頼されていない証拠なのだ。自分をつるいてて頑張ろうと思う。カナコ先生は、卒業式前だと言うのに、すごく落ち着いた表情をしていた。落ち着いているというよりもむしろ達観しているというか、何かをもう諦めているというか、その時は、カナコ先生の落ち着きっぷりをすごいなあと思った。ただ見つめたいたのだけれども、それが重大なサインだったことに僕は気がついていなかった。

ヨシオの姿が消え、代わりにみずほとかえでが現れる。

みずほ ねえ、  
かえで ん？

みずほ 付き合ってるの？タイチくんと  
かえで え、いや別に  
みずほ ねえ、教えて  
かえで いやいや、ちょっとまってどうしたの急に。  
みずほ いや、かえで、タイチくんと仲よさそうだったから。付き合ってたのかなって  
かえで そんな、付き合ってたないよ、あんなやつ好きになるわけないじゃん、あんな、なんか、ひよろひよろでちっちゃくて、いつもだっさい  
「シャツ着てズボンもダボダボで靴下なんか毎日黄色、赤、青、黄色、赤、青の繰り返しで  
みずほ かえで？  
かえで もう、とにかくあんなバカ靴下信号野郎なんてどうでもいいから。  
みずほ かえで、口悪いね  
かえで そうかな  
みずほ でも、よかったあ  
かえで どうしたの？  
みずほ 私ね、好きなの。タイチくんのこと。  
かえで えっ  
みずほ 今度、告白しようと思うんだ。  
かえで 嘘、  
みずほ なんで嘘つくのよ、本気だよ。  
かえで そう：がんばって。  
みずほ 応援してね、かえで。  
かえで うん：応援してる  
みずほ ホント？  
かえで もちろん  
みずほ ありがとう！じゃあ！

と、手を振り、帰ろうとするみずほ

かえで みずほ

みずほ ん？

かえで 頑張っ

みずほ うん！

職員室。カナコがぼーっと座っている。

ヨシオがそれを見て話しかける。

ヨシオ カナコ先生、カナコ先生？

カナコ んー？

ヨシオ 大丈夫ですか

カナコ 何が？

ヨシオ あー、いや何もないですけど

カナコ そう

ヨシオ どうしたんですか、そんなにぼーっとして。

カナコ ぼーっと？誰が？

ヨシオ カナコ先生ですよ

カナコ してないしてない、ぼーっとなんてしてないから。

ヨシオ 酔ってます？

カナコ え？

ヨシオ いや、臭いします。お酒の。

カナコ ごめん

ヨシオ いや、ごめんじゃなくて。

カナコ ごめん

あたりが夕暮れに包まれる

ACT 5

タイチとかえではベンチに座っている

かえで 遠き山に日は落ちてゝ

かえで、タイチを見る

タイチ うん

かえで 星は空をちりばめぬゝ

かえで、再びタイチを見る

タイチ うん

かえで 歌ってよ

タイチ 歌詞知らない

かえで 嘘。

タイチ 嘘。恥ずかしい。

かえで 意気地なし

タイチ うん

かえで 知ってた

タイチ ごめん

かえで いいよ、それでも好きだから

タイチ ありがとう

かえで それだけ？

タイチ ごめん

かえで バカ

タイチ ごめん

長い沈黙、のち。

タイチ 帰ろ？

かえで （黙って頷く）

歩き出す二人。

タイチ じゃあね

かえで うん

タイチが去った後、立ち止まるかえで。

「家路」が流れる。

かえで、ゆっくり家とは違う方向に歩き出す。

ヨシオとカナコが首吊りの木のしたにいる。

ヨシオ ここ自殺が多いんですって

カナコ ここ？

ヨシオ うん、ここ、この木

カナコ どうしてだろう

ヨシオ ほら向こう。きれいでしょ。

カナコ ほんと

ヨシオ だからかなって

カナコ だから、ここで死ぬの？

ヨシオ どうせなら眺めがいいところでみたいな

カナコ まさか

ヨシオ そうかな

カナコ 死ぬ前にそんなこと考える？

ヨシオ 僕なら、ここで死にたいです。

カナコ 死にたいの？

ヨシオ 今じゃないけど  
カナコ いつか？  
ヨシオ カナコ先生がいなくなったら  
カナコ そう  
ヨシオ いなくなるんですか？  
カナコ わかんない  
ヨシオ そう

沈黙

ヨシオ どんな気持ちなんですかね  
カナコ え  
ヨシオ ここ登って、いざって時に、こんな景色  
カナコ その人にとって綺麗とは限らないじゃん  
ヨシオ どういうこと  
カナコ この眺めが嫌いだったかもその人  
ヨシオ どの人  
カナコ 例え話  
ヨシオ ああ  
カナコ 帰ろ  
ヨシオ え  
カナコ 寒いから、ここ  
ヨシオ え、でも  
カナコ 寒い  
ヨシオ 待って。

かえでの姿も見える。  
ぼーっとしながらどこかを目指している。  
タイチとみずほの姿が見える。仲良く話しながら  
歩いている。これはかえでの見ている幻想か



もしれない。

タイチ ん？

みずほ どうしたの？

タイチ いまなんか聞こえなかった？

みずほ なにも

かえで、「遠き山に日は落ちて」を口ずさむ。

ヨシオ 月が綺麗ですね

カナコ うん

ヨシオ 月が綺麗ですね

カナコ うん

ヨシオ 月が

カナコ うん

ヨシオ 綺麗ですね

カナコ ：

ヨシオ 知らない？

カナコ 私、

ヨシオ うん

カナコ 私死にたい。

ヨシオ え

カナコ 死にたい、私

ヨシオ なんか違いますか？

カナコ 死にたい

と、かけ出すカナコ

ヨシオ ちょっと、カナコ先生どこ行くんですか。

と、追いかけるヨシオ  
かえで、歌っている口を止め、

かえで 死にたい

と、その場に座り込む。

## ACT 6

ヨシオ それから〓日ほどしてカナコ先生は死んだ。  
首吊りの木で首を吊って死んだ。

ヨシオ、ゆっくりと月を見る

ヨシオ 月が綺麗ですね

ヨシオ 月が綺麗ですね

ヨシオ その返事を聞けないまま死んだ。

ヨシオ でも、そのまた〓日後、彼女は生き返った。  
生き返ったのではなく、たぶんまだ死んでい  
るのだけれども、確かに彼女はそこにいた。  
自分が死んだことに気がつかずにまださまよ  
っているのだろう。だから僕はなるべく、彼  
女に「彼女が死んだ」ということを気づかれ  
ないように、明るく振る舞った。話が食い違  
っても、彼女が生きていることにしてうまく  
話をあわせた。それでも時折、複雑な顔をし  
て涙を浮かべるのだけれども、たぶんまだ気

づいていない。これでいいんだ。彼女とそばにいれば、僕だって悲しくはならない。

カナコ ヨシオ先生

ヨシオ どうしたの？

カナコ ごめんね。

ヨシオ 何が

カナコ ごめん。

と、うつむくカナコ

ヨシオ ほら笑って

カナコ、顔を上げ

カナコ ありがとう

かえでとみずほがいる

かえで 元気出して、大丈夫

みずほ 元気でない

かえで らしくないよ

みずほ らしくない

かえで らしくない

みずほ タイチくん、東京戻るんだって。

かえで え？

みずほ 卒業したらすぐまた戻るんだって。両親がね、

そういう

かえで ああ、転勤族みたいな

みずほ ちよっとムカつく。

かえで どうしたの  
みずほ だってほら、東京行くからって。東京行かな  
かったら付き合ってるのかなって。  
かえで そういうやつだから、あいつ。  
みずほ ずるいと思う。  
かえで 元気だしなよ  
みずほ だから  
かえで うん  
みずほ だから、私も東京、行きたい。  
かえで 本気で言ってる？  
みずほ 本気だよ、ずっと憧れてた、東京。  
かえで 怖いよ、東京  
みずほ 何が？  
かえで 何がつていうかなんとなく  
みずほ いく、東京。学校卒業したら。  
かえで いや、いくらなんでも早すぎるってそれは。  
まだ中学生なんだよ  
みずほ 卒業したら高校生  
かえで まだ高校生  
みずほ かえではどうするの？  
かえで どうって  
みずほ 行きたくないの東京  
かえで なんで東京なの  
みずほ 東京じゃなくても、もっといろんなものがあ  
るところ  
かえで いろんなもの？  
みずほ うん、いろんなもの。ショッピングセンター、  
ハンバーガーショップ、おしゃれなカフェ！  
かえで カフェならあるよ、ここにも  
みずほ あれはカフェっていうか、喫茶店

かえで 同じじゃん

みずほ なんがちよっと違う

かえで 横文字ならいいの？

みずほ え？

かえで 全部横文字。ショッピングセンター、ハンバーガーショップ、カフェ。

みずほ べつにそういうことじゃないけど

かえで 私は、ここに残るよ

みずほ ここでいいの

かえで ここがいいの

みずほ そう

かえで なんてかはわかんないけど

みずほ 待ってろよ、東京！

かえで タイチくんじゃないの？

みずほ それもだけど、今は東京。東京に行ったらも

つとハンサムな男いるかも

かえで あ

みずほ ん？

かえで また横文字

そこにタイチがやってくる。

タイチ いた

かえで タイチくん

タイチ 聞いた？

かえで 何を？

タイチ 先生のこと

かえで 何それ

タイチ 知らないの？

かえで 知らない、どうしたの？

タイチ いいから、こっちきて。

と、タイチが、かえでの腕をがっしりつかみ立たせる。

かえで あっ（と不意に照れるかえで）

みずほ えっあっちよつと

タイチ みずほも来て。

みずほ うん

と、二人走り出す。

カナコ 知ってます？自殺する人の割合っ、都会より

田舎の人の方が多いんですって。

ヨシオ そうなの？東京とかの方が

カナコ 東京は人が多いからそりゃ自殺する人数は多いけど、割合で見たら、圧倒的に田舎の方が多いの。

ヨシオ なんで？

カナコ なんででしょう

ヨシオ こんなに自由なのに

カナコ こんなに自由だからですよ

ヨシオ ああ

カナコ 映画館も遊園地もない。遊びに行くにしても山や川。広すぎてどこに行く気にもならないし、街に行こうにも電車もほとんど来ない。嫌になっちゃうんですね。ヨシオ先生はそんなこと思ったことないんですか？

ヨシオ

そりゃたまにはあるよ。あるけど、まあ、こっちはさ、人と人との繋がりが濃くてさ、そ

カナコ　んなこと気にならないくらいには楽しいよ  
だからですよ

ヨシオ　え？

カナコ　濃すぎるんですよ、関係が。

ヨシオ　いいじゃん

カナコ　うまく馴染めなかったら、すぐのけもの扱い。  
あるんですよ、村八分。今でも。ゴミ捨て場  
使わせてもらえなかったり、回覧板回ってこ  
なかったり。ひどい時には、水道止められた  
りするんですよ、勝手に。

ヨシオ　どうしたの？

カナコ、ヨシオをみる。

ヨシオ　話してください、僕になんでも。

カナコ　ヨシオ先生、嫌われちゃった私。みんなから。

ヨシオ　カナコ先生

## ACT 7

タイチ　もう泣くなよ

みずほ　だって：タイチくんは悲しくないの？

かえで　タイチくんは転校して来たばかりだったも  
んね。

タイチ　いや、だからって別に

みずほ　かえで、その言い方はよくないよ

タイチ　ああ、いや、いいよ別に

かえで　バカ

タイチ　え？

かえで　来たばかりのくせして、すぐどっか行きや

がって

タイチ　なんか言った？

かえで　どっか行くなって言ってんの

みずほ　かえで？

かえで　先生に言ったの

みずほ　口悪いよ、かえで

かえで　ごめん

：

かえで　雪、もう解けちゃうね

ゝ人、解けかけた雪をぼんやりと見つめる。

タイチ　あ

みずほ　どうしたの？

タイチ　なんか、声が聞こえる気がする。

みずほ　声？前も言ってたやつ？

タイチ　うん、声。

かえで　聞き間違えでしょ

タイチ　いや、違う。なんか喋ってる、うーって。

かえで　風の音だって

タイチ　いや、風はごーごーでしょ。

かえで　じゃあ、虫の声。

タイチ　ちがう。

かえで　じゃあ、なに？

タイチ　わかんない

かえで　なにそれ

タイチ　でも聞こえる。名前よばれてる。

かえで　まさか

タイチ　なんか変なんだよ、この音。

みずほ　変？



タイチ 普通、こう音に近づいたら大きくなるでしょ、それで、音から遠くなったら小さくなる。でも、この音、変わらないんだよ。まるでだれかが、ついてきてるみたいに。

かえで なにそれ

みずほ ねえ、先生じゃない？まだこの近くにいるんだよきつと。

かえで そんなことある？

みずほ あるよ、きつと

かえで そんな夢でもないし

みずほ ねえ、先生、聞こえるなら返事して、私だよ、私

ヨシオ ちょっと、カナコ先生、そんなに走ったら危ないですって、ここ山なんだから。

カナコ 知ってる

ヨシオ 知ってるならもうちょっと待ってくださいよ

カナコ 見て。月

ヨシオ 春の月って、冬の月よりも大きく見えるんですって

カナコ どうして

ヨシオ ほら、近くあるように見えるんです、こう山のほうにおりてきて月が。

カナコ 今にも手が届きそう

ヨシオ カナコ先生、返事

カナコ え？

ヨシオ 返事まだもらってないです。

カナコ なに？

ヨシオ 返事です。

カナコ …

ヨシオ どうしたんですか？

カナコ 聞こえない

ヨシオ え？

カナコ 聞こえないの

声。声が聞こえない

先生の声が聞こえない。

ヨシオ、カナコをぼーっと見つめる。

かえで 聞こえるわけないって。

ヨシオ 先生、どうしたんですか？

みずほ タイチくんには聞こえるんだから、私たちも  
聞こえるはず

かえで タイチくんには聞こえても先生には聞こえない

カナコ 聞こえない

ヨシオ ナコ先生？聞いてますか？

タイチ 聞こえる気がする

かえで 鳥の声

みずほ 聞こえない

カナコ 聞こえない

ヨシオ 聞こえないんじゃないって聞いていないんです、

まだ

かえで 風の音

みずほ 先生の声。聞こえるはず  
タイチ 聞かなきゃ

ヨシオ 僕が、先生の返事を  
カナコ (食い気味に) 聞こえないの、あなたの声が  
聞こえない

と、言いながらカナコ、離れていく

ヨシオ 先生

タイチ 先生の声、聞かなきゃ  
みずほ 聞きたい  
かえで 聞こえないって

カナコ 先生、もうあなたの声が聞こえないのね。  
ヨシオ どこにいくんですか、先生。僕はあなたの返  
事が、聞きたいんです  
ヨシオ あなたの返事が

カナコ あなたがいなくなっても一人で生きていける  
かな…

かえで 聞こえない  
みずほ 聞こえない  
タイチ…

カナコ もうあなたの声が聞こえない  
ヨシオ 返事が、返事が聞こえない

ACT 8

カノンが流れる。

順番に現れる制服姿の少年少女たち。

手には花束を抱えている。

ヨシオ、立ち上がり

ヨシオ　そして、卒業式になった。卒業生が入場し、国歌斉唱が終わる。その後、校歌を歌い終わった卒業生は、緊張をしたような表情をしている。もちろん、僕も同じだ。今から、卒業証書授与が行われる。名前を間違わないように、名前を飛ばさないように。僕は前にたった。

ヨシオ　卒業証書授与されるもの

カノンが止まる。

ヨシオ　僕はその時、気がついた。ここから見る景色が今まで悪夢に見てきた光景とまったく同じなのだ。

ヨシオ　卒業証書授与されるもの

ヨシオ　といってもだれも動き出そうとしない。

ヨシオ　そうか、これも悪夢なのだと思ったけれども、そうでもないらしい。これだけ意識がはつきりしているのだ。第一、夢を見ている時には

概して「それが夢だ」なんて思ったことは一度もない。

これは現実なのだ。

ヨシオ 卒業証書授与されるもの

青木 光男

加藤 浩子

佐久間 みずほ

どうして誰も返事しないんだ。

卒業証書授与されるもの

青木 光男

加藤 浩子

佐久間 みずほ

鈴木 茂雄

中島 はな

前田 かえで

矢島 薫

渡辺 タイチ

なんでみんな下を見てるんだよ、ほら、お前たちの卒業式だよ。ほら、こっちに来て、校長先生から証書をもらって。

卒業証書授与されるもの

青木 光男

加藤 浩子

佐久間 みずほ

鈴木 茂雄

中島 はな

前田 かえで

矢島 薫

渡辺 タイチ

返事がない。

ヨシオ 頼む、こっちを向いてくれ。

聞こえないのか

なんで泣いてるんだよ。

なあ。

返事してくれよ。

カナコ 先生：ヨシオ先生！

ヨシオ カナコ先生

カナコ 先生、まだ思い出せないの？

ヨシオ え？

カナコ あの時

ヨシオ あの時？

カナコ 先生が私に月が綺麗ですねって言ったあの時。

ヨシオ あの時、あの時、たしかカナコ先生は死にた

いって、それで。

カナコ それで？

ヨシオ 自分で首をつって

カナコ それはあなたじゃない

ヨシオ え？

カナコ 私、死にたいと言ったけど、死んではいな

いわ。

ヨシオ え、いや、カナコ先生は確かに

カナコ ちよつと、一人になりたかっただけ。

ヨシオ え、そんな

カナコ ヨシオ先生、あの時、私がいなくなったら死ぬかもって言ってた。

ヨシオ うん、いや、でもそれは

カナコ バカ。

ヨシオ え

カナコ なんで本当に死んじゃうの

ヨシオ 僕は、まだ死んでない。

カナコ バカ

カナコ、ヨシオを押し倒す。

ヨシオ カナコ先生：

カナコ ヨシオ先生、あなたって時々自分の都合のいいように考えちゃうんだから。

カナコ、立ち上がって距離をとる

ヨシオ カナコ先生、どこいくんですか

カノンの音が強まる。

一人ずつ、花束を寝ているヨシオのまわりに置いていく。しかし、今度のその花束は葬式花だ。

ヨシオ どうしたんだ、みんな、それはお前らの花束だよ、あの遠くに輝く月に向かって手を伸ばしていくお前たちの花束だよ。今、だんだん

と強くなる春の日差しを浴びながら自分の足で歩みだそうとしているお前たちの花束だよ。

カナコ それはあなたの花束。

たくさんの人に見守られながら天国へ向かうあなたを送る花束。

遠い遠い空まで登っていき、あの月まで手を伸ばそうとするあなたの花束。

ヨシオ そんな、今日は卒業式じゃないか。

カナコ 今日はあなたのお葬式。

長い沈黙

かえで、タイチ、みずほ、カナコは、横になっているヨシオをじっと見つめている。

ヨシオ 僕は、僕は本当に死んだんだ。

タイえチ あ、

かえで どうしたの？

タイチ 声が聞こえなくなった。

∞人、遠くを見つめている。

## ACT 9

カナコ、首吊りの木の下の台にたつ。

カナコ すっかり校庭の桜の蕾も膨らみ始め、春らし



さを感じられるようになりました。  
それでも雪解けにはまだ早く、まるで別れを  
惜しむかの様にも思えます。

ヨシオ先生、今日も月が綺麗ですね。  
月が山の端にかかり、今にも手が届きそうな  
くらい近くにあるように見えます。

首吊りの輪に手を伸ばし、握る。

だからでしょうか、あなたがいなくなっ  
ても、すぐそばにあなたがいるような気がし  
ます。

そして心の中のあなたは、私にいつもこう微  
笑みかけます。月が綺麗ですね。と  
時折、こうやってここから街の景色を見下ろ  
します。何もない街だけれど、あなたとあえ  
て本当によかった。

首つりの輪から手を離す。

なんども、もう死んでもいいと思いました。  
でも、ごめんなさい、私はまだ死ねません。  
どんなに苦しくても生きて、生きて生きて、  
生きて生きて生きて、あなたの分まで生き続  
けていきます。これがあなたへの返事です。

だんだんと月の光も消えて舞台が完全  
な闇へと包まれていく。

おわり

あとがき

「月が綺麗ですね」は「愛している」という意味らしい。

「死んでもいいわ」も「愛している」という意味らしい。

では、もし月が汚かったら、もし死にたくなかったら、私たちは愛することはできないのか。もちろん、そんなことはない。

「死んでもいいわ」が愛の告白ならば、「死にたくない」だって愛の告白になり得るのではないか。

そんな風に、人間の考えることは時々矛盾する。

希望に向かってがむしゃらに手を伸ばしていたら、いつのまにか絶望が目の前にあることだって（少なくとも僕には）ある。

おんなじように、月に向かってがむしゃらに手を伸していたら、いつのまにか首つりの縄を掴んでいたなんてこともあるだろう。

これはそんな話ではないかと上演してから気がついた。

作・演出 一ノ宮綾平

（劇団かたかご）

## 上演記録

2020 年 2 月 22 日～2020 年 2 月 23 日

@KC スタジオ（兵庫県神戸市）

上演時間 50 分

あらすじ

山奥にある中学校。

ある生徒は都会に夢見て、

またある生徒は恋をする。

卒業証書授与式。僕は生徒の名前を呼びあげる。

なのに、誰の返事も聞こえないんだ：

スタッフ

作・演出 いちのみや

演出補佐 大小豆

舞台監督 鳴海遥真

照明 大崎ピンチョス・いちのみや

音響 いちのみや・羽立栞

舞台美術 鈴木なすび（演劇研究会はちの巣座）

小道具 優愛（劇団えっぐ・劇団ぶんちゃか座）鈴木なすび

衣装メイク オニールつかさジャスミン（演劇研究会はちの巣座）愛花あかり（劇団狸寝入）

制作 いちのみや・オニールつかさジャスミン・愛

花あかり・岸田月穂（劇団ちやうかちやわん）

フライヤー制作 大小豆  
パンフレット制作 いちのみや

キャスト

ヨシオ 鳴海遥真

かえで 羽立栞

みずほ 優愛（劇団えっぐ・劇団ぶんちやか座）

（以上、劇団員）

カナコ 愛花あかり（劇団狸寝入）

タイチ 鈴木なすび（演劇研究会はちの巣座）